

論壇

発展続ける経済のハブ

先日シンガポールに出張した折、チャンギ空港の第1ターミナルの横にできたJEWELという商業施設を見学した。観光案内などにも出ているので知っている人もいるかもしれないが、空港に隣接した商業施設としては世界最大級のものである。ドーム球場のような建物の中に数多くの施設が入っており、中には巨大な滝が流れている。その滝の横にはターミナルをつなぐ電車が走っていた。

シンガポールといえば、建物の屋上に巨大な船のようなものが乗

伊藤 元重 学術院大教授(国際経済学)

っているマリーナ・ベイ・サンズの建物がある。今やシンガポールで最も有名な建物であるが、JEWELも同じ会社がデザインしたものだ。

ご存じのようにシンガポールの1人当たりの所得は日本よりも高い。急速な経済発展により、あっという間に日本を追い抜いてしま

先を行くシンガポール

つた。人口300万人程度の島に多くの外国人を引き寄せ、物流や金融のハブとして発展を続けている。日本でもインバウンドの観光客を誘致して経済を活性化しようという議論が少しずつ広がっているが、シンガポールはそのはるか先を行っている。海外から多くの

人が来ることが経済を活性化させるのに非常に有効であるというところを実感させる街である。そのシンガポールの街を歩いてみると、以前にも増して日本の店や商品が増えていることを実感する。先に触れたJEWELにも、無印良品、タイガーオニツカ、ユニクロなど日本企業の店舗が多数

東南アジア展開の拠点

関係にある。シンガポールに出行く企業は、東南アジア全体の市場を見ている。シンガポールで成功基盤を固めて、周辺の東南アジア市場へ広げて行くという戦略である。

経済活動はいつかのハブを起す点に広がる傾向がある。例えば香港は中国市場への重要なハブである。日本からの食糧輸出の相手として最も大きいのが香港である。聞いたことがある。これは香港の消費者だけを対象とした輸出というよりは、そこを経由した中国への市場開拓も含んでいると考えるべきだろう。香港で成功すること、中国への市場参入にもプラスになるのだ。

同じように、シンガポールは東南アジア市場への重要な入り口である。そこで存在感を持つことは、東南アジア全域へ展開する重要な基礎となる。シンガポールの百貨店やショッピングモールを回ってみると、日本の果物やお酒やお菓子などが大量に売られている。日本の消費財が地元の人に受け入れられていることがわかる。静岡の物産についても、シンガポールや香港など地域の拠点に集中的に攻めて行くという手法が有効かもしれない。もちろん、静岡への観光の誘致でも同じだ。今回はJR東日本がシンガポールに設けた観光誘致のカフェを訪れる機会があった。こうした民間企業との連携という手法も有効であると思う。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。